



2027年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2026年8月14日

上場会社名 株式会社 NEW ART HOLDINGS

上場取引所 東

コード番号 7638 URL <https://www.newart-ir.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長

(氏名) 白石 幸生

問合せ先責任者 (役職名) 取締役

(氏名) 小崎 慎一郎

TEL 03-3567-8098

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績(2026年4月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	7,781	9.9	779	3.6	768	23.1	576	108.1
2026年3月期第1四半期	7,083	37.7	752	62.9	624	24.4	276	39.0

(注) 包括利益 2027年3月期第1四半期 582百万円 (176.2%) 2026年3月期第1四半期 210百万円 (115.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	33.59	—
2026年3月期第1四半期	16.07	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期第1四半期	28,009	11,640	39.1
2026年3月期	28,105	11,865	39.7

(参考) 自己資本 2027年3月期第1四半期 10,951百万円 2026年3月期 11,155百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	35.00	—	45.00	80.00
2027年3月期	—				
2027年3月期(予想)		0.00	—	80.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年3月期の連結業績予想(2026年4月1日～2027年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	15,000	0.6	2,000	2.0	1,900	2.9	1,000	1.4	58.29
通期	33,000	3.1	5,200	6.0	5,100	5.4	2,500	6.2	145.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2027年3月期1Q	17,386,204 株	2026年3月期	17,386,204 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2027年3月期1Q	230,704 株	2026年3月期	230,664 株
------------	-----------	----------	-----------

期中平均株式数 (四半期累計)

2027年3月期1Q	17,155,519 株	2026年3月期1Q	17,236,532 株
------------	--------------	------------	--------------

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	6
(3) 連結業績予想などの将来予想情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
四半期連結包括利益計算書	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11
(セグメント情報等の注記)	12
(重要な後発事象)	14

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間（2026年4月1日～2026年6月30日）は、グループ基幹事業であるブライダルジュエリー事業が国内市場において引き続き堅調に推移するとともに、海外においても新規出店に向けた準備を進めるなど、今後の成長に向けた事業基盤の拡充を進めました。また、食品事業、ヘルス&ビューティー事業、その他事業においては、それぞれ市場環境や顧客ニーズの変化を踏まえ、収益性の改善及び新たな顧客層の開拓に向けた取り組みを進めました。

リゾート開発事業においては、レジデンス「Sampen House of Art」の建設が2027年5月の竣工に向けて順調に進捗しており、2026年6月には最先端映像芸術ショールームが完成するとともに、東急リゾート株式会社による販売を開始いたしました。

当第1四半期連結累計期間におけるグループの業績は、売上高77億81百万円（前年同期比9.9%増）、営業利益7億79百万円（前年同期比3.6%増）、経常利益7億68百万円（前年同期比23.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益5億76百万円（前年同期比108.1%増）となりました。

当社は、「みんなの夢の企業グループ NEW ARTは、アートの持てるすべての力で、あなたを美と健康と幸せに導きます」という企業理念のもと、さらなる成長機会の獲得に向け、グループ全体の事業拡大及び企業価値の向上に継続的に取り組んでまいります。

なお、2027年3月期の株主配当につきましては、期末配当として1株につき80円の普通配当を予定しております。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

（注）各セグメントの業績数値は、セグメント間の内部売上高または振替高を調整前の金額で記載しております。

①ジュエリー・アート・オークション事業

当第1四半期連結累計期間におけるジュエリー・アート・オークション事業の売上高は55億2百万円（前年同期比10.1%増）、セグメント利益は11億63百万円（前年同期比18.2%増）となりました。

ブライダルジュエリー事業におきましては、国内市場における競争環境が一層激化する中、引き続き堅調な売上及び利益を確保いたしました。前連結会計年度においては、円安や地金価格の高騰等による仕入コストの上昇を背景とした価格改定を実施いたしましたが、販売現場における新たな価格体系への対応が進んだことなどにより、成約率についても安定して推移しております。また、集客、販売、商品開発をはじめとする各部門において、それぞれが高い目標を掲げ、ブランド価値の向上と収益力の強化に向けた施策を継続的に推進しております。こうした各部門が一体となった取り組みが、競争環境の厳しい国内市場において、安定した収益を確保する基盤となっております。

ブランド戦略におきましては、「エクセルコ ダイヤモンド」において、引き続き株式会社オスカープロモーション所属の後藤久美子氏をブランドアンバサダーとして起用し、高級ジュエリーブランドとしてのブランド価値向上を推進しております。

さらに、ブランド価値及びグローバルでの認知度の一層の向上を目的として、「WORLD JEWELRY DESIGN AWARD 2026」を開催しております。本アワードの発表以降、世界各国から多数の反響と応募をいただいております。国際的なジュエリーデザインアワードとして大きな関心を集めております。本アワードは、ダイヤモンドの「輝き」を原点に、素材への深い理解、輝きに対する思想、そして時を経ても価値を失わない造形を追求することで、新たなジュエリーデザインと才能を世界から発掘することを目的としております。今後、2026年8月下旬から9月下旬にかけて審査を実施し、同年10月1日に受賞作品を発表する予定です。また、12月8日には駐日ベルギー大使館において授賞式を開催し、グランプリ、特別賞及び優秀賞に選出された3作品については、株式会社NEW ARTにおいて製品化し、「エクセルコ ダイヤモンド」各店舗で販売する予定です。

海外事業につきましては、グループのさらなる成長に向けた重要な事業領域と位置付け、出店及び事業基盤の拡大を積極的に進めております。前連結会計年度においては、2025年12月に香港・沙田へ新店舗をオープンし、2026年2月にはシンガポール高島屋店を開業いたしました。当連結会計年度におきましても海外展開をさらに加速させ、2026年8月に韓国・ソウルへの出店、同年9月にはシンガポールにおける2店舗目の出店を予定しております。また、台湾市場においても新たに2店舗の出店を予定しており、今後5年間で市場シェア拡大を目指した各種施策を推進しております。

海外拠点においては、日本で培ってきたブライダルジュエリーを事業の基軸としながら、各国・地域の文化や価値観を尊重したブランド展開を進めております。さらに、一部の拠点においては、当社グループのジュエリーブラ

ンドと各国の現代アートとの融合という新たなコンセプトを取り入れ、従来のブライダルジュエリーの顧客層にとどまらない、より幅広い層への訴求を図ってまいります。

今後も、国内市場における安定した収益基盤を維持・強化するとともに、ブランド価値の向上及び海外市場への積極的な展開を通じて、世界に通用するジュエリーブランドとしての認知度及び市場シェアのさらなる拡大を図ってまいります。

オークション事業におきましては、株式会社東西ニューアートにおいて、公開オークション及び非公開オークションを積極的に開催し、国内外の美術市場における認知度の向上及び落札実績の積み上げに取り組んでおります。第2四半期以降においても、国内外で複数のオークション開催を予定しており、国内外の画廊や美術商との連携を一層強化するとともに、良質な作品の出品機会の拡大及び幅広い購入者層の獲得を進めてまいります。今後も、優れた作品が集まり、安心して売買いただけるオークションプラットフォームとして、出品者・購入者双方にとって価値ある市場の提供を目指すとともに、オークション事業のさらなる拡大に取り組んでまいります。

②食品事業

当第1四半期連結累計期間における食品事業の売上高は18億71百万円（前年同期比13.5%増）、セグメント損失は12百万円（前年同期はセグメント利益25百万円）となりました。

食品事業におきましては、香港市場において消費の二極化やコストパフォーマンスを重視する傾向が進む一方、香港と深圳を中心とした生活・経済圏の一体化が進展しております。当第1四半期連結累計期間においては売上高が前年同期を上回ったものの、仕入コストをはじめとする各種コストの増加等により、利益面では厳しい結果となりました。

今後につきましては、香港における既存顧客基盤を活かしながら、和牛をはじめとするプレミアム食材や自社加工品など高付加価値商品の取扱いを拡充し、商品ミックスの最適化や原価管理の徹底による収益性の改善を進めてまいります。

また、深圳に構築した営業・物流拠点を基盤として、中国本土における新規顧客及び販売チャネルの開拓を進めるとともに、将来的な日本産和牛の輸入解禁も視野に入れ、香港市場における収益性の改善と深圳市場における成長基盤の拡大に取り組んでまいります。

③ヘルス&ビューティー事業

当第1四半期連結累計期間におけるヘルス&ビューティー事業の売上高は3億56百万円（前年同期比7.0%減）、セグメント損失は88百万円（前年同期はセグメント損失51百万円）となりました。

ヘルス&ビューティー事業におきましては、これまで若年女性層の美容・痩身ニーズに対応したエステティックサービスを展開し、強固な顧客基盤ならびに施術・接客に関するノウハウを蓄積してまいりました。一方で、競争環境の激化や市場ニーズの多様化が進む中、当第1四半期連結累計期間においては、売上高及び収益性の改善に向けた各種施策を推進したものの、収益改善には至りませんでした。

このような状況を踏まえ、既存の女性顧客層向けサービスを継続しつつ、市場ニーズの変化に対応した新たな顧客層の開拓を進めております。具体的には、健康意識の高まりを背景として、中高年男性層を新たな重要顧客セグメントの一つと位置付け、これまで培ってきた美容分野におけるノウハウと理学療法等の専門的知見を融合したウェルネス領域向け高付加価値サービスの開発及び提供体制の構築を進めるとともに、当該分野への経営資源の重点配分を行ってまいります。

これらの取り組みをヘルス&ビューティー事業の収益構造改革に向けた重要施策と位置付け、2026年秋の本格展開に向けて準備を進めております。今後も既存顧客へのサービス提供を継続しながら、新たな顧客層の開拓を推進し、事業全体の収益性向上及び持続的な利益創出を目指してまいります。

④リゾート開発事業

当第1四半期連結累計期間におけるリゾート開発事業の売上高は34百万円（前年同期比1.4%減）、セグメント損失は58百万円（前年同期はセグメント損失35百万円）となりました。

リゾート開発事業におきましては、長野県軽井沢町で開発を進めているレジデンス「Sampen House of Art」の建設が2027年5月の竣工に向けて順調に進捗しております。また、2026年6月には最先端映像芸術ショールームが完成するとともに、東急リゾート株式会社による販売を開始いたしました。「Sampen House of Art」は、「自然・人間・アート」の三要素の調和と共存をコンセプトとし、全9戸を第1期5戸、第2期4戸に分けて販売する予定です。本プロジェクトは、第1期及び第2期を合わせて約100億円規模の販売を想定しており、物件引渡しは

開始される2027年度（2028年3月期）以降、本格的な収益貢献を見込んでおります。

また、当社が中軽井沢北部の野鳥の森に所有する、建築家・隈研吾氏設計によるメインハウス1棟及びゲストハウス3棟で構成された別荘「野鳥の森山荘」については、16億円での販売を予定しております。さらに、軽井沢駅から徒歩7～8分の旧軽井沢地区に位置する約2,116㎡の土地についても、土地のみでの販売を受け付けており、坪単価200万円での販売を予定しております。

加えて、「Sampen House of Art」の次なるフェーズとして、同プロジェクトと一体的に開発する「Sampen Hotel & Museum」の計画を進めております。約2,500坪（8,328㎡）の敷地を活用し、ホテルとミュージアムを融合した施設として、国内外の富裕層をはじめ幅広いお客様に新たな滞在価値と芸術体験を提供することを目指しております。

「Sampen Hotel & Museum」では、ミュージアム機能を併設し、宿泊者のみならず一般来場者にもご利用いただける施設として展開する計画です。国内を代表するキュレーターの参画も予定しており、当社グループならではの企画展等を通じて、世界から足を運びたいとする芸術体験の創出を目指すとともに、国際的に高い評価を得られるホテルづくりを進めてまいります。

現在、軽井沢エリアの地価は上昇基調にあり、特に旧軽井沢地区及び本通り沿いの準商業地域については希少性が高く、当社が保有する土地についても取得時の簿価を上回る水準で推移しております。

今後の大型開発については、複数の大手デベロッパーとの協業を前提として、保有土地の有効活用や売却等も組み合わせることで、当社グループの財務負担を抑えながら事業を推進していく方針です。軽井沢リゾート開発に必要な土地の取得は概ね完了しており、今後は保有資産を有効に活用しながら、軽井沢におけるリゾート開発事業を当社グループの中長期的な成長を支える重要事業の一つとして育成してまいります。

⑤その他事業

当第1四半期連結累計期間におけるその他事業の売上高は15百万円（前年同期比31.1%減）、セグメント損失は33百万円（前年同期はセグメント損失13百万円）となりました。

その他事業におきましては、グループの新たな成長領域として、スポーツ・アパレル分野を中心とした事業基盤の構築を進めております。その一環として、株式会社ニューアート・スポーツは、事業領域の拡大及び今後のブランド展開を見据え、株式会社NEW ART APPARELへ商号変更いたしました。

株式会社NEW ART APPARELでは、これまで取り組んできたスポーツ関連事業に加え、アパレル事業への本格参入を進めております。新たな取り組みとして、銀座を発信拠点に、ゴルフ、アート、ファッションを融合したプレミアム・ライフスタイルブランドを2026年8月より展開いたします。

新ブランドでは、NEW ARTグループがこれまで培ってきた美意識やアート領域における知見・ネットワークを活かし、「ART × FASHION × SPORTS」をコンセプトに、ゴルフシーンのみならず、都市での日常にも自然に溶け込む新たなラグジュアリースタイルを提案してまいります。従来のゴルフウェアやスポーツアパレルの枠にとらわれない商品展開を通じて、新たな顧客層の開拓とブランド価値の確立を進めてまいります。

NEW ARTグループは、ブライダルジュエリー事業を中核に、食品、ヘルス&ビューティー、リゾート開発、アート・オークション、スポーツ・アパレルなど、多様な領域へ事業を拡大しております。こうした事業領域の拡大は、単なる多角化を目的とするものではなく、グループが長年培ってきた「美」に対する感性や「アート」を軸としたブランド力、企画力、国内外のネットワークを各事業に活かし、それぞれの事業を相互に結び付けることで、NEW ARTグループならではの新たな価値を創出することを目指すものであります。

今後も、ブライダルジュエリー事業で培った安定した事業基盤を軸としながら、既存事業の収益力強化と新たな成長領域への展開を進め、グループ全体の持続的な成長と企業価値の向上に取り組んでまいります。

当社グループのセグメント別売上高は、下記のとおりであります。

セグメント区分	販売・サービスの名称など	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日) (千円)	前年同期比 (%)	構成比 (%)
ジュエリー・アート・オークション事業	ブライダルジュエリーの製造・販売、ブライダル関連サービス、美術品の販売等・アートオークションの運営等	5,502,036	10.1	70.7
食品事業	加工冷凍肉・加工冷蔵肉の販売、魚介類製品の販売	1,871,876	13.5	24.1
ヘルス&ビューティー事業	エステティックサロンの運営、化粧品及び健康食品等の製造・販売	356,991	△5.7	4.6
リゾート開発事業	ホテル・結婚式場の運営、リゾート開発事業	34,960	△1.4	0.4
その他事業	クレジット事業、ゴルフ用品の製造・販売、関連スポーツ用品の開発・製造	15,589	△30.8	0.2
合 計		7,781,454	9.9	100.0

(注) セグメント間の取引については相殺消去しております。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産の部)

流動資産は、前連結会計年度末比51百万円増加（前連結会計年度末比0.3%増）し、191億67百万円となりました。これは主に、受取手形、売掛金及び契約資産が2億22百万円、商品及び製品が2億22百万円並びに流動資産のその他に含まれる前渡金が1億77百万円増加した一方で、現金及び預金が5億19百万円減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末比1億46百万円減少（同1.6%減）し、88億42百万円となりました。これは主に、敷金及び保証金が32百万円増加した一方で、建物及び構築物（純額）が31百万円、のれんが23百万円並びに繰延税金資産が94百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は前連結会計年度末比95百万円減少（同0.3%減）し、280億9百万円となりました。

(負債の部)

流動負債は、前連結会計年度末比3億51百万円増加（前連結会計年度末比3.0%増）し、119億8百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が99百万円、短期借入金が6億92百万円並びに契約負債が3億13百万円増加した一方で、未払法人税等が8億58百万円減少したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末比2億21百万円減少（同4.7%減）し、44億61百万円となりました。これは主に、長期借入金が1億39百万円並びに長期未払金が59百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末比1億29百万円増加（同0.8%増）し、163億69百万円となりました。

(純資産の部)

純資産は、前連結会計年度末比2億24百万円減少（前連結会計年度末比1.9%減）し、116億40百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益が5億76百万円あった一方で、剰余金の配当7億71百万円があったことによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は39.1%（前連結会計年度末は39.7%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年3月期の連結業績予想につきましては、2026年5月15日公表の業績予想から変更はありません。なお今後、業績予想について変更がある場合は速やかに公表いたします。

業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、実際の業績は業況の変化や予期せぬ事象の発生などによって、大きく異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,235,520	1,716,380
受取手形、売掛金及び契約資産	2,450,230	2,672,351
商品及び製品	9,621,474	9,843,760
仕掛品	6,751	59
原材料及び貯蔵品	353,605	342,257
販売用不動産	2,596,200	2,596,200
仕掛販売用不動産	1,436,877	1,446,777
前払費用	284,545	336,651
その他	248,850	316,861
貸倒引当金	△118,190	△104,055
流動資産合計	19,115,866	19,167,245
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,005,633	1,973,744
機械装置及び運搬具（純額）	5,070	4,415
工具、器具及び備品（純額）	629,002	610,308
土地	2,359,296	2,373,405
リース資産（純額）	219,383	211,606
その他（純額）	168,152	148,794
有形固定資産合計	5,386,539	5,322,275
無形固定資産		
のれん	961,378	937,462
その他	52,250	52,732
無形固定資産合計	1,013,629	990,194
投資その他の資産		
投資有価証券	976	1,417
長期貸付金	33,809	32,993
敷金及び保証金	1,623,945	1,656,110
繰延税金資産	636,104	542,039
その他	485,548	488,884
貸倒引当金	△191,343	△191,225
投資その他の資産合計	2,589,039	2,530,220
固定資産合計	8,989,208	8,842,690
資産合計	28,105,074	28,009,935

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,112,467	1,212,379
短期借入金	4,703,866	5,395,968
1年内返済予定の長期借入金	856,303	816,591
リース債務	126,157	128,076
未払金及び未払費用	1,041,268	1,026,126
未払法人税等	1,139,145	280,565
契約負債	2,306,904	2,620,335
その他	270,617	428,109
流動負債合計	11,556,730	11,908,152
固定負債		
長期借入金	2,332,347	2,192,848
リース債務	179,440	152,460
退職給付に係る負債	308,621	314,371
資産除去債務	720,906	718,726
その他	1,141,577	1,082,822
固定負債合計	4,682,892	4,461,230
負債合計	16,239,623	16,369,382
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,301,098	3,301,098
資本剰余金	3,056,354	3,056,354
利益剰余金	5,565,262	5,369,575
自己株式	△312,422	△312,478
株主資本合計	11,610,293	11,414,549
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	258	560
為替換算調整勘定	△454,705	△463,428
その他の包括利益累計額合計	△454,447	△462,868
非支配株主持分	709,605	688,870
純資産合計	11,865,451	11,640,552
負債純資産合計	28,105,074	28,009,935

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	7,083,200	7,781,454
売上原価	2,837,755	3,106,774
売上総利益	4,245,444	4,674,679
販売費及び一般管理費	3,492,898	3,895,079
営業利益	752,546	779,600
営業外収益		
受取利息	642	1,327
為替差益	—	41,708
その他	6,043	6,626
営業外収益合計	6,685	49,662
営業外費用		
支払利息	61,949	59,681
為替差損	66,291	—
その他	6,322	883
営業外費用合計	134,564	60,565
経常利益	624,667	768,697
特別利益		
受取和解金	—	49,857
その他	—	3,000
特別利益合計	—	52,857
特別損失		
減損損失	2,680	7,261
その他	—	1,043
特別損失合計	2,680	8,304
税金等調整前四半期純利益	621,987	813,250
法人税、住民税及び事業税	265,272	137,714
法人税等調整額	87,181	93,678
法人税等合計	352,454	231,392
四半期純利益	269,533	581,857
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△7,441	5,545
親会社株主に帰属する四半期純利益	276,974	576,311

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益	269,533	581,857
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	41	302
為替換算調整勘定	△58,601	599
その他の包括利益合計	△58,560	901
四半期包括利益	210,972	582,759
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	241,867	567,891
非支配株主に係る四半期包括利益	△30,895	14,867

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	128,305千円	102,177千円
のれんの償却額	42,132千円	37,856千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ジュエリー・アート・オークション事業	食品事業	ヘルス&ビューティー事業	リゾート開発事業	その他事業	合計		
売上高								
顧客との契約から生じる収益	4,967,493	1,648,794	378,265	35,439	20,110	7,050,103	—	7,050,103
その他の収益(注) 3	30,478	—	211	—	2,406	33,097	—	33,097
外部顧客への売上高	4,997,972	1,648,794	378,477	35,439	22,516	7,083,200	—	7,083,200
セグメント間の内部売上高又は振替高	294	—	5,433	—	280	6,008	△6,008	—
計	4,998,267	1,648,794	383,910	35,439	22,797	7,089,209	△6,008	7,083,200
セグメント利益又は損失(△)	984,397	25,074	△51,007	△35,340	△13,164	909,960	△157,413	752,546

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、全社費用△157,413千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. その他の収益には、企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」の範囲に含まれる金融商品に係る取引及び企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれるリース取引等が含まれております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

ヘルス&ビューティー事業において、店舗資産に係る減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、前第1四半期連結累計期間においては、2,462千円であります。

リゾート開発事業において、店舗資産に係る減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、前第1四半期連結累計期間においては、217千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自 2026年4月1日 至 2026年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ジュエリー・アート・オークション事業	食品事業	ヘルス&ビューティー事業	リゾート開発事業	その他事業	合計		
売上高								
顧客との契約から生じる収益	5,463,717	1,871,876	356,836	34,960	15,075	7,742,465	—	7,742,465
その他の収益 (注) 3	38,319	—	155	—	513	38,988	—	38,988
外部顧客への売上高	5,502,036	1,871,876	356,991	34,960	15,589	7,781,454	—	7,781,454
セグメント間の内部売上高又は振替高	282	—	—	—	110	393	△393	—
計	5,502,318	1,871,876	356,991	34,960	15,700	7,781,847	△393	7,781,454
セグメント利益又は損失 (△)	1,163,769	△12,529	△88,621	△58,616	△33,806	970,195	△190,594	779,600

- (注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、全社費用△190,594千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. その他の収益には、企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」の範囲に含まれる金融商品に係る取引及び企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれるリース取引等が含まれております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

ヘルス&ビューティー事業において、店舗資産に係る減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては、3,460千円であります。

リゾート開発事業において、店舗資産に係る減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては、3,639千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。